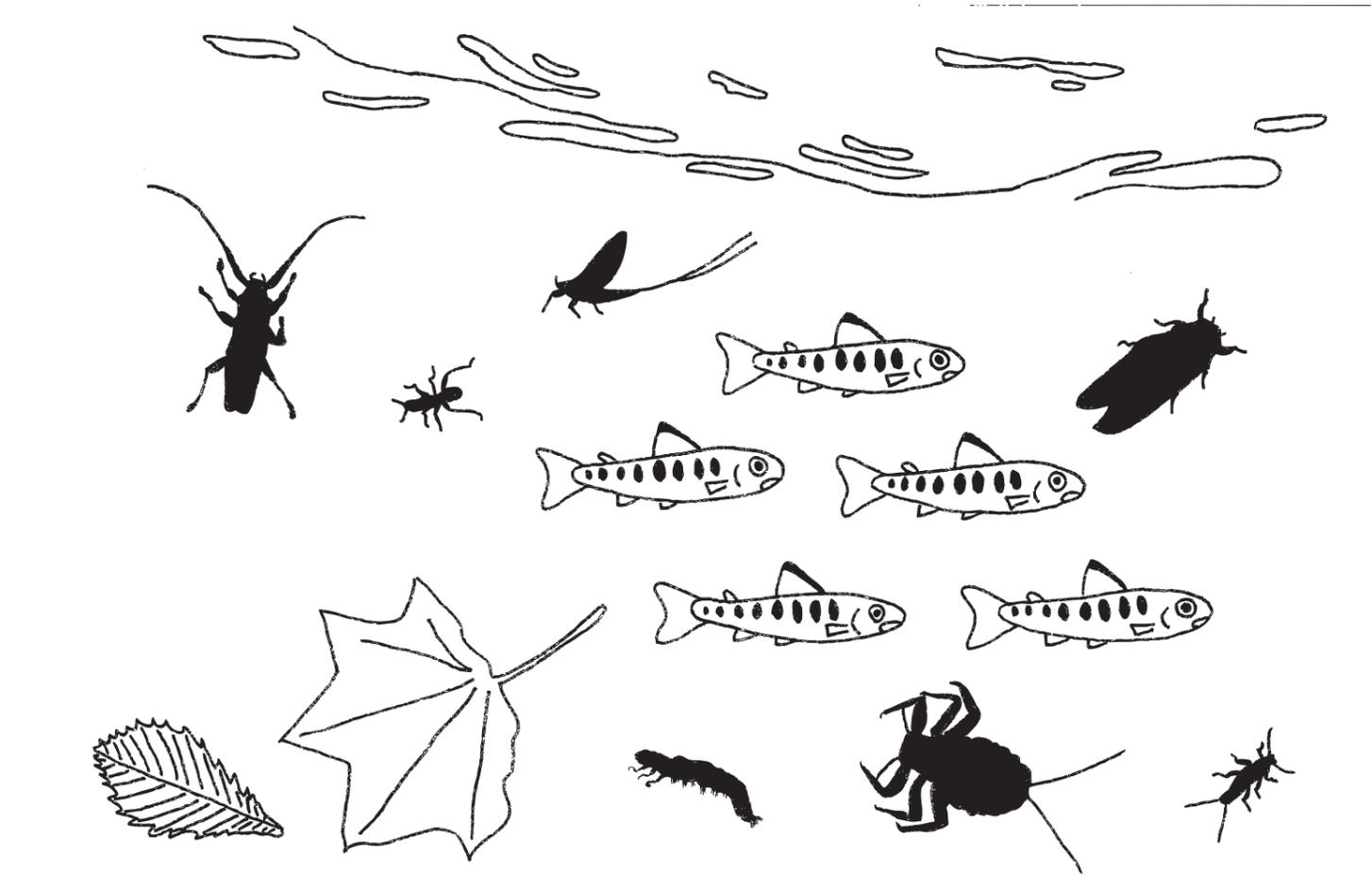
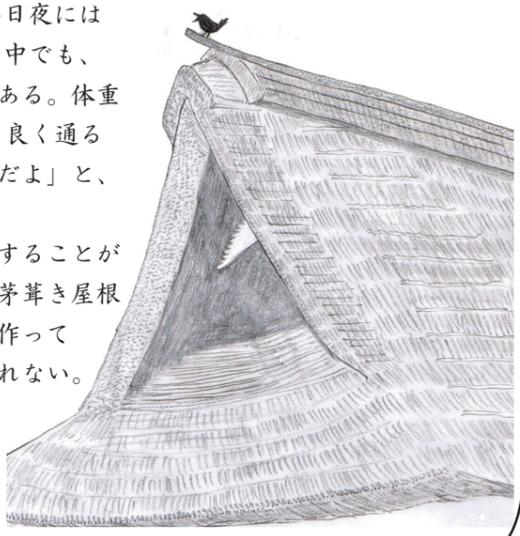


第3号 “茅葺き屋根の上でさえざるミソサザイ”

御岳山の冬は長い。10月から最低気温は10℃を下回る日があり、2月の寒い日夜には-10℃近くまで下がる。4月になってもまだ暖房が手放せない。そんな長い冬の中でも、少しずつ着実に春が近づいていることを知らせてくれるのがこのミソサザイである。体重10gにも満たないとても小さな鳥なのに、まだ寒さの厳しい2月下旬頃から、良く通る大きな声で元気よくさえずり始める。寒空の下の力強い声は、「春はもうすぐだよ」と、言われている気がして励まされる。

沢の周辺で子育てをするミソサザイは、ビジターセンター近くでも良く観察することができる。普段は沢の石の上など地面に近い所で鳴いていることが多いのだが、茅葺き屋根の東馬場家では、屋根の上で盛んにさえずっている。屋根の隙間にコケで巣を作っていることもあった。ここは、ミソサザイにとって、安心できる場所なのかもしれない。

2016年春から東馬場家の屋根の葺き替えが始まる。ミソサザイは職人さんの様子をうかがいながら、どこでさえずるだろうか。春を感じるミソサザイのさえずりを、これからも御岳山で聞き続けたい。



御岳山でちょい 御岳山 お花見スポット



お花見とは、主に桜等を愛でに野山で出かけること。古くから親しまれてきた春の行事です。桜を見るのもイけれど、他にもオススメのお花があります。

今回は、桜を含めた御岳山ならではの「お花見スポット」をご案内します。

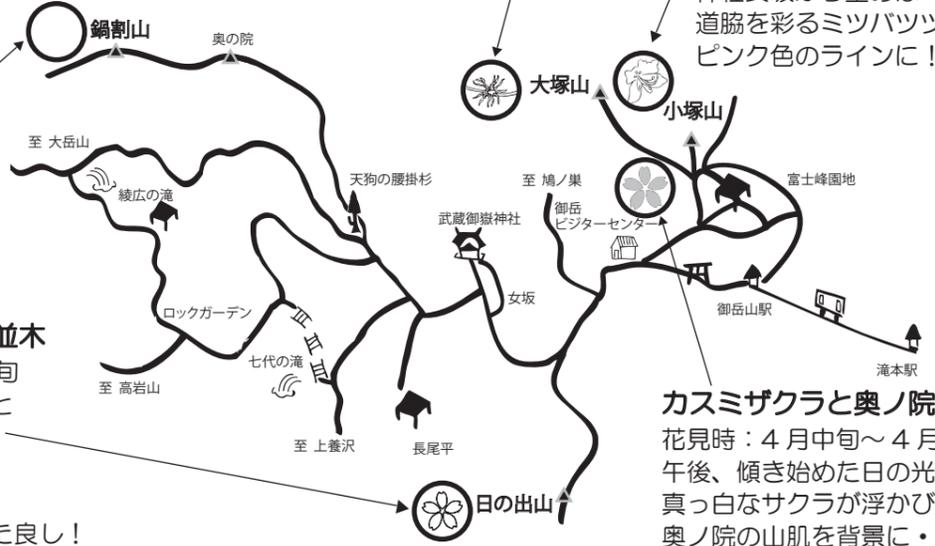
森の足元を彩るカタクリ
花見時：4月中旬～4月下旬
まだ冬の気配漂う雑木林。その林床にカタクリの花がアクセントを添え早春の装いを演出する。

青空とマンサク
花見時：3月上旬～3月下旬
立ち止まり見上げてごらん。控え目に咲く黄色い花が青空に映える！

小塚山のミツバツツジ ロード
花見時：4月中旬～4月下旬
神社女坂から望めば道脇を彩るミツバツツジがピンク色のラインに！

日の出山 ヤマザクラの並木
花見時：4月中旬～4月下旬
長尾平から日の出山を見ると深緑色の針葉樹の山肌尾根筋に沿って桜並木が彩る！遠くから見る「花見」もまた良し！

カスミザクラと奥ノ院
花見時：4月中旬～4月下旬
午後、傾き始めた日の光を浴びた真っ白な桜が浮かびあがる。奥ノ院の山肌を背景に・・・。



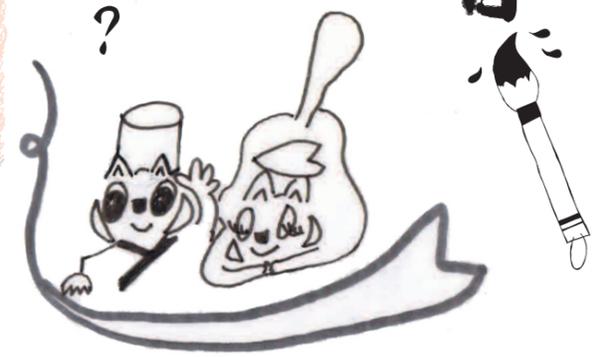
早春のロックガーデン
ゆるやかな流れの中で群泳するヤマメの稚魚たち
秋の静かな沢で小さな命は宿り
厳しい冬を乗り越えて、春を迎えた
沢底に溜まった落ち葉のすき間にいる川虫を食べ
初夏には森から沢に落ちてくる虫たちが、ヤマメをさらに育む
命はこうしてつながっていく



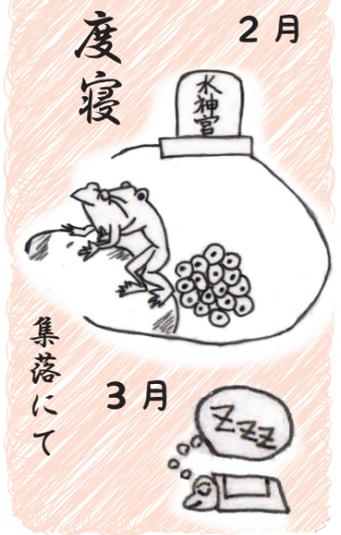
御岳ビジターセンター
〒198-0175 東京都青梅市御岳山38-5
制作・発行
開館 (9:00~16:30) 休館 (月曜日 ※祝日の場合は翌日)
TEL 0428-78-9363 FAX 0428-78-9445
HP <http://mitakevc929.ec-net.jp/> 2016年3月1日 第3号

御岳山歌会始 春

毎年恒例、歌会始
 今回のお題は、「御岳山の春の生き物」
 解説員が、御岳山での出来事を詠みました！
 皆さんも、春の御岳山で一句作ってみませんか？



冬眠中
 ちよつと目覚めて 卵産み
 ヤマアカガエルは 春まで二度寝



講評
 天敵が少ない寒い間に卵を産むのは生き残るための作戦ですね。そしてエサの虫たちが出てくるまでもうひと眠りというわけです。

ヒオドシチョウ
 冬を耐え抜き
 チョウ寿だね



講評
 成虫で冬を越すチョウのたくましさにびっくりポンね。ちなみに、ポロポロの翅は回復しません。

エサよりも
 恋を求めて
 木をたたく



講評
 キツツキは、ドラムのように木を叩いてプロポーズするのですね。高速で叩くことが重要のようですね。

早々と
 オオルリ鳴いて 夏鳥の
 大トリしめるは ホトトギスなり



講評
 昨年の春は、オオルリが一番にやって来ました。今年の飛来する順番は？どうなるか楽しみですね。



はつとして
 クマかと思ひ 身がちぢむ
 何てことない カモシカのケツ



講評
 この所、ロックガーデンで多発している見間違い?! 黒い動物を発見しドキとした情景が目浮かびます。

シカがきて
 生きぬくために 草木たべ
 悲しき春の レンゲシヨウマ



講評
 ここ数年で良く目撃されるようになったニホンジカ。生きていくために色々な植物を食べる。でも、本当にシカは悪者なのでしょうか？

富士峰園地にて

り

